

【面接官の印象】

1. 外国人面接官の印象

年齢は 30 代後半～40 代前半くらいか。英語 **native** とは思うが国籍までは分からず。ソフトな感じでこちらが話すことに関して、ニコニコと相槌を打ってくれたので比較的話しやすかった。

2. 通訳ガイド

年齢 40 代とおぼしき女性。非常にソフトで笑顔を絶やさず、相槌も外国人試験官と同じで今回試験官には恵まれた感じですか。お蔭であまり緊張することもなくリラックスして出来た。

3. 通訳試験について

《出題された日本文》

詳細は覚えていませんが、「神戸の灘で生産される清酒は六甲山の地下水と近郊で生産される良質の米を材料として作られます。良質の地下水と陶器(?)が清酒の品質維持に一役買っています。」といった趣旨だったと思います。

《自分の解答》

内容的にはそれほど難しくはなかったのですが、かなり長く感じました。文章が 3 つあったと思います。英文は殆ど覚えていません。もともと通訳問題は最大の苦手、多分良くても全体の 6 割くらいしか訳せていないと思います。

4. 2 分間プレゼンテーションについて

《出題されたトピック》

- ① 流行語大賞
- ② 大奥
- ③ 西国三十三か所

《選択したトピック》

『 西国三十三か所 』

《発表した内容》

まず、昨年までと違うのは、途中 1 分間の合図がなかったことです。たまたま忘れたのか今年から意図的になくしたのかは不明。

出題されたトピックは、いろいろ速報で出ている他の時間帯のトピックと比べるとかなりマニアックな部類にはいるアイテムだと思われます。私の場合、観光関係でスピリチュアル系が何となく出そうだという予感があり、予め「四国遍路八十八か所」については考えていたので、同じお寺周りということで「西国三十三か所」を選択し、無理やりこじつけて何とか 2 分間話し切りましたが、正直相当辛かったです。

英語で何を言ったかを再現するのは難しいのですが、主旨は、指定されたお寺を全部回れば修了書が貰えること、参加する動機は、日常生活から逃れたい人もいれば、亡くなった人を偲ぶために、あるいは過去と決別して新たな出発をするためのきっかけとする人もいる、また、最近では外国人のお遍路さんも増えている、等々を話したと思います。こう置くと何か良いように見えますが、それが正しい英語となって正しく伝わっているかどうかはまた別の話です。後で考えると相当いい加減な英語と嘘八百も並べ立てた印象です。

5. 質疑応答について

NS	お遍路回りで行く寺の宗教は何か？
I	仏教の寺。
NS	キリスト教徒でも参加できるのか？
I	勿論可能。仏教でも神道でも異教に寛容である。
NS	あなたは参加したことがあるのか？
I	まだないが、退職したら夫婦で行きたいと思っている。
NS	期間的にはどのくらいかかるのか？
I	個人差があるが数週間。
NS	ずっと歩くのか？
I	これも個人によるが、公共交通機関を使っても構わない。
NS	数週間の旅だと費用が掛からないか？
I	お遍路の魅力の一つに地元の人たちとの触れ合いがある。宿を提供してくれるかもしれない。(半分冗談で言ったが昔はそうだったのであろう)」
NS	西日本でこの三十三か所回り以外に、東日本では味わえない観光ルートやお薦めスポットはあるか？
I	西国三十三か所に似た四国お遍路八十八か所巡りがある。それと日本の代表的スピリチュアルスポットとしては熊野古道がお薦め。山岳信仰としての修験道の聖地で

NS	ある。私はしないが滝を浴びる修行もある。
----	----------------------

6. 試験を終えての感想

一次と同様およそ手答えとか自信というものは感覚として持てないというのが、終わったばかりの率直な印象です。